



KAGAWA  
ROSAI  
HOSPITAL

# いぶき

いぶき 第4号  
 発行者 原田 英雄  
 編集 患者サービス向上委員会  
 香川県丸亀市城東町3丁目3番1号  
 TEL (0877)23-3111  
 FAX (0877)24-1147  
 季刊誌 年4回発行  
<http://www.kagawah.rofuku.go.jp>



5Fダイルームより飯野山を望む

## 骨粗鬆症とは！

整形外科部長 横山 良樹

最近、骨粗鬆(こつそしょう)症の話をよく聞かれると思います。ですが、それでは、骨粗鬆症とは一体どんな病気でしょうか。大根に鬆(す)がはいりカスカスになっていっているのを見かけると思いますが、骨が同じ様な状態になる事があります、それが骨粗鬆症です。それは、人間の老化現象の一つと考えてよいと思います。

それでは、一度できた硬い骨はどのようなものなのでしょうか、硬い骨がいつまでも硬いままに残っているのでしょうか、そうではありません。正常人に於いても人間の骨は新陳代謝をおこなっております、一度できた骨は破骨細胞にて破壊され吸収されますが、一方では、骨芽細胞にて骨が形成されます。正常人では、骨吸収と骨形成のバランスがとれてい

なります。特に女性においては生理が止まると、ホルモンの関係で骨吸収が促進し形成が追いつかず骨がもろくなります。

骨がもろくなるとどうなるか、全身の骨がもろくなりますが、よく起こす骨折はふとももの付け根(大腿骨頸部骨折)、手首(とう骨)、せほね(腰椎)などが比較的多いようです。どれほどの人が骨折しているかといえ、大腿骨頸部骨折の頻度は100人に1、2人で、最近増加し、平均寿命が伸びる以上に増加しています。

また、薬物にて骨塩量を増やす方法もあります。最近では、多くの薬が開発されていますが、薬の効果をお医者さんによく相談して内服する必要があります。一方、むやみに内服するのではなく、定期的に骨量を測定し、薬の効果があるかをよく知っている必要があります。骨塩量の測定にも多くの測定方法がありますが、一般にはスクリーニングとして超音波(踵骨など)によるものがあります、より正確に測定するにはレントゲンを用いて背骨や、大腿骨の骨量を測る方法をお勧めします(当院でも予約制にて測定しています)。

ですが、骨の病気になる、長らく寝たきり状態になると、バランスが崩れ、骨形成が低下して骨がもろくなります。また、正常人でも高齢になるとカルシウム不足などにて骨形成が遅れ、それに伴い骨ももろくなります、その結果、わずかの外力にて骨折しやすくなります。骨折しやすくなると、日常生活に支障をきたすことになり、生活の質が低下してしまいます。

また、最近では、骨折を防ぐためには転ばない事も大切であると言われています。転倒しないためにはどうすればよいか、日頃から敏捷性をやしない、咄嗟に動けるようにしておくことも大切です。また、誤って転倒した時のために、腰にパッドを入れておく方法もいわれています。また、睡眠薬や安定剤、血糖降下剤、降圧剤などの常備薬にも注意し、薬が効きすぎると転倒しやすくなるので十分に注意する必要があります。

看護婦さんに付き添われた車椅子の患者さんが、二階の窓からのぞいている。何だか嬉しそうにしているのが私には嬉しく見える。

香川労災病院の光庭（中庭）へ、私の彫刻設置作業の日である。

新築完成したこの病院には、中央部分の中庭に天井が無くオープンスペースとなっていて、外光が気持ちよく入って来る。

病院のような建物は機能が重視されて、廊下は広く直線的な構造になっている。人工光線はよく考えられて一見快適に思えるのだが、ハイテクの技術を駆使しても自然光にはかなわない。それは、人の心や身体を考えなくてはならない建物だからなおさらのことである。

新築当時は、この光庭は花崗土だけで何も無かった。ある日、副院長の鶴野正基先生から、「何か中庭へ置く彫



心の癒しのために  
速水史朗 (彫刻家)

刻を考えませんか。」という話があった。「庭樹は段々大きくなって、院内が暗くなるからよくない。」とも言われていた。確かに、病院側では患者さんの心の問題を真剣に考えていること

がよくわかった。

私の石彫は、確かに丸みがあつて優しく人の心を取り込めるのかも知れないと思ひながら、スケッチを始める。

結果として、外部は丸い形にして、そ

の中に胎児とも見える空間を造つたものになって来た。

この形体は、病院、医師の先生方、看護婦さん、そして患者さんの家族などが協力して、身体の悪くなった人を守っているかのようにも見る事が出来るものだった。

石彫が出来上がって据付工事となったが、すでにビルが完成していて、重くて大きい石を搬入するためには100トンのクレーン車で、三階建ての建物をまたがなくてはならない。

数個に分けられた石彫が巨大クレインで中庭に入ってくるから、一寸面白い風景が出現した。入院中の患者さんたちが、珍しがって見に来るのも無理はない。周辺も低木にして、台石のまわりにはリュウノヒゲを植えて、少々色彩にも気を配った。

鶴野先生との雑談の中で、この石彫を「ひと・こころ」と名づけることにした。

長時間待合室で座っている外来患者さんや家族、そして入院している人たちに、なごみを差し上げることが出来ればという思いから、身体のことと、それ以上に大切なかも知れない心の問題を、少しでも助けることが出来ないものかと考えた。患者さんやここで働く多くの人の心の癒しになれば、作者としてこんな倅せなことはない。

# お知らせ

## 労災病院公開健康講座

日時 6月20日(木)

午後1時30分～午後3時

会場 労災病院管理棟会議室3F

演題 「糖尿病について」

講師 内科副部長 岡本 雅也

栄養管理室長 平田 邦江

リハビリテーション科技師長 原田 三士

主任薬剤師 増田 玲子

外来看護師 吉川 照美

## 糖尿病教室

毎月第1週から第4週の日曜日の午後3時から1時間です。

第1週 糖尿病とは何か？

(講師 岡本内科副部長)

第2週 糖尿病の食事療法

(講師 平田栄養管理室長)

第3週 糖尿病の合併症

(講師 岡本内科副部長)

第4週 糖尿病のある生活・運動と薬

(講師 理学療法士・看護師)

## 息切れ教室

毎月第4金曜日の午後3時から1時間程度です。

講師 副院長 多田 慎也

6月 咳、痰について

7月 在宅酸素療法について

## 香川労災病院内科紹介

副院長 多田 慎也

当院の内科は現在、8名の医師(部長、副部长、医師)嘱託医4名、研修医若干名で構成され、年間約1,400名の入院患者と外来については年間約10,600名の新患、延べ人数で約58,000名の再来患者の診療を行っています。また各種検査として消化器X線検査、消化器内視鏡検査、腹部超音波検査、気管支鏡検査等を担当しています。ひと口に内科といっても最近では、臓器別、疾患別に細分化される傾向にあり、複雑で高度化する医療内容を反映して、当院でも循環



内科医師一同

器科と神経内科が独立しています。このような専門分化は合理的ですが、患者様によっては一人を各専門領域で分担して診療することになり、主治医は誰かといった状況も生まれる可能性があります。そこで分化に対応する統合としての総合診療科の意義が認識されつつあります。当内科では総合診療の考え方を基本とし、その上に各専門分野を配置した構成にしています。呼吸器は多田、中村、塩見が中心となり、感染症、アレルギー喘息、肺気腫、呼吸不全、肺癌の診断治療を行っており、年間約120例の気管支鏡検査や気管支鏡を用いた治療を行っています。また肺気腫、呼吸不全の患者様を対象として息切れ教室を開催しています。消化器は吉永、松村を中心として慢性肝炎から肝硬変の治療、年間約3000件の胃カメラ検査、1500件の大腸内視鏡検査を行っています。また内視鏡を用いての胆石や食道静脈瘤(肝硬変から大量吐血を起こします)治療や早期ガン切除、放射線科と連携した肝胆膵疾患の診断治療といった広範な領域の診療を行っています。慢性腎炎や腎不全、透析療法については呼吸器専門医でもある塩見が永年の豊富な経験を基に治療にあたっており、腎生検には最も熟達しています。また合併症として腎障害を起こしやすい糖尿病は岡本が中心となって診療にあたっており、糖尿病教室を看護部、栄養士等と共に運営しています。岡山大学で血液学の研究成果を挙げ、最近着任した海野、野口医師は内科全般を担当しています。

ガンから高血圧、糖尿病、高脂血症といった内科の病気の多くは、生活習慣病としての捉え方がなされるようになりました。早期発見から発症予防へと、病気についての考え方が変わりつつあります。定期的な検

診や人間ドックの利用は有効な方法であり、当院で定期的に開催されます健康講演会や各種教室での情報提供の活用と共に、この度当院に開設されました勤労者予防医療部での健康相談も御利用頂いて、健康に自信を持ち元気な毎日をお過ごし下さい。

入院患者については、多田が毎週回診を行い、内科カンファレンスで新入院患者を中心とした症例検討、さらに消化器グループと呼吸器グループの専門カンファレンスで診断、治療方針の検討が行われています。内科各分野で最新の医療についての抄読会も毎週行われ、また全科が参加する臨床病理検討会も月一回開催されており、診療内容の評価と検証を行っています。

臨床医として永年に渡り経験を積み重ねたベテラン医師の存在も信頼される医療における重要な要素ですが、診療レベルを客観的に保証する各種学会の専門医制度の認証があります。これには各医師が専門医としての認定を受ける場合と病院自身が指導医を擁し専門医の育成に適していることを保証する施設認定があります。内科関連では内科学会から教育病院の施設認定を受けており、その他消化器病学会、消化器内視鏡学会、呼吸器学会、気管支学会、アレルギー学会、老年病学会、プライマリーケア学会等の認定を受けています。また厚生労働省は平成16年度から卒語臨床研修制度(以前のインターンに該当)を実施する予定ですが、当院はこれに先だって一昨年より研修病院としての認定を受け、研修医を受け入れています。これは当院が内科に限らず各診療科が、単に診療するだけでなく、研修医を指導、教育するに足るレベルの病院であることを厚生労働省にも認めて頂いていることを意味します。

最後に、内科領域のあらゆる疾病について、他科とも連携しながら、全国レベルで通用する安心と信頼の診療を行っていることを強調してこの稿のまとめとさせていただきます。

### 外来診療予定表

診療科	時間・診察室	月	火	水	木	金	
内科	午前	一診	多田	中村	多田	渡邊	中村(之)
		二診	松村	海野	松村	海野	中村(武)
		三診	塩見	水尾	吉永	塩見	吉永
		四診	野口	洲崎	岡本	野口	岡本
		五診		糖尿 石田			
	午後		糖尿 石田	呼吸器 中村(之) (再来のみ)			
循環器科	午前	曾根	渡邊	三谷	水尾	曾根	
	午後		ペースメーカー			振動	
外科	午前	一診	鶴野	津村	香川	鶴野	津村
		二診	国土	立本	池田	村岡	勝野
	午後		呼吸器 津村	肝胆膵 香川	※乳腺 鶴野・村岡		
整形外科	午前	一診	永井	松本	横山	永井	松本
		二診	高田	高田	立花	大茂	横山
	午後	リウマチ外来		リウマチ外来	脊椎外来	小児外来	
形成外科	午前	田中	田中	田中	田中(午後)	田中	
脳神経外科	午前	一診	藤本	吉野	寺井	藤本	吉野
		二診	寺井	佐々原		中川	
	午後	中川(Xナイフ)			佐々原		
神経内科 メンタルヘルス科	午前	一診	中島	小山	中島	中島	小山
		二診	小山		小山		中島
泌尿器科	午前	一診	西	西	水野	西	西
		二診	水野	真鍋	倉繁	真鍋	水野
産婦人科	午前	一診	川田	友國	川田	木下	友國
		癌検診	木下	木下	友國	川田	木下
	午後	産科予約検診	友國		木下		川田
		産後検診				交代制	
眼科	午前	一診	小見山	小見山	小見山	小見山	小見山
		二診	村岡	村岡	村岡	村岡	村岡
耳鼻咽喉科	午前	一診	森下	森下	森下	萩池	森下
		二診	江口	江口	江口	江口	江口
	午後			小児外来			
歯科口腔外科	午前	一診	長谷川	長谷川	長谷川	長谷川	長谷川
		二診				谷崎	
麻酔科(ペインクリニック)	午前	北浦・井上	佐牟田	北浦	戸田	北浦・井上	
ストマ外来	午前		佐藤看護師		佐藤看護師		

※乳腺外来 鶴野(第1・3・5木曜日)・村岡(第2・4木曜日)

### 健診部

日帰りドック……………1日20名 火、水、金曜日  
 一般健診……………1日20名 月、木曜日  
 脳ドック……………1日1名 月、火、木曜日  
 雇入時の健康診断 ) ……………1日30名 (隔週)水曜日  
 定期健康診断

海外派遣労働者の健康診断……………随時  
 特殊健康診断……………随時  
 振動障害健康診断……………1～3名 金曜日  
 健診車による出張健診……………月～金曜日  
 丸亀市住民検診 ……………(6～11月)月～金曜日

※全ての健診は予約が必要です。 ※健診の曜日は変更になることがあります。

- 当院は、政府管掌健康保険生活習慣病予防健診事業の指定病院となっており、該当する方は補助を受ける事が出来ます。
- 健診の結果、二次検査が必要となった場合、内科系・乳腺外来のみ当院で予約を行っております。



● 労災病院周辺で見られる鳥 ●

～ アオバズク ～

主任薬剤師 吉村正則

青葉が茂り出す頃から見られるズク。とは名前の由来。日没後、お城や神社の杜から「ホッ、ホッ」と二音節で鳴いている。普通に見られるフクロウの仲間、街中でもTVアンテナや電線に止まっているのも良く見かける。

「薬が効く！、効かない？」その②

タバコの弊害

薬剤部長 平松 龍磨

皆様ご存知の通り、タバコは嗜好品として多くの人々に愛用されていますが、なかなかタバコの弊害は、たいへんなものです。タバコを喫煙していると、①狭心症、心筋梗塞などの虚血性心疾患、②脳卒中、③パーキンソン病などの血栓性血管炎などに罹りやすくなります。これは、ニコチンが、脂肪酸代謝や、リポタンパク代謝に悪影響を及ぼし、動脈硬化が促進されるからです。喫煙時にタバコの中に含

まれる高濃度の一酸化炭素CO

も関わりを持つと言われていま

す。又、煙の中にはいくつかが

がん原生物質も含まれていて、

紙巻きタバコでは特に著しい事

がわかっていきます。タバコによ

る気管支炎、呼吸機能低下も腫

瘍形成の一因とされています。

そして、若年層の喫煙者では、

潰瘍の発症が多くみられます。

原因としては、胃への血流がニ

コチンのために減少する事があ

げられます。発症はまた喫煙係

数（喫煙本数/日×年数）と関わりを持っています。例えば、1日に20本のタバコを20年間吸い続けると喫煙係数が400（20本×20年）となります。この係数が400以上になると80%弱の確率で潰瘍の発生があると言われています。そして喫煙者は、非喫煙者に比べて肝臓での薬物代謝が高まっている、薬が速く分解されるため、薬が「効きにくい」状態が起こります。喫煙者で「効きにくい」と言われている薬剤に、気管支拡張剤のテオフィリン、ベンゾジアゼピン系薬剤等があげられます。又、経口避妊薬によって生じる心臓循環器系に関する有害作用の危険性は、非喫煙者に比べて喫煙者の方が、遙かに高いことが明らかにされています。何れにいたしましても、呼吸器、消化器、循環器といった多くの病気で受診される患者様が、喫煙しながら薬を服用するのは、全くおかしなことです。車で言えば、ブレーキを踏みながらアクセルを踏んでいるのと同じ事になります。現在は、禁煙補助剤もあり、あきらめないで禁煙に努力しましょう。喫煙者は受診する時の問診には、必ずタバコを吸っていることを伝えておいて下さい。

高脂血症の食事療法

主任栄養士 奥村 誠子

健診で「コレステロール・中性脂肪が高めですよ」と言われたことはありませんか。

コレステロールや中性脂肪が高くなる最も大きな原因は、食べ過ぎやお酒の飲み過ぎです。

脂っこい食べ物をひかえていても、食べ過ぎでエネルギーが余れば、脂肪として体内に蓄えられます。また、肝臓でのコレステロールの合成も活発になり、血液中のコレステロールや中性脂肪が増えていきます。

高脂血症と言われたら、次のポイントに注意して、食生活を

見直してみませんか。

①標準体重をめざしましょう。1日にとる食事のエネルギーを適正にすることが大切です。肥満している人には特に効果的です。

★1日に必要なエネルギー

標準体重×25～30kcal

△標準体重×身長(m)×身長(m)×22V

②肉に多い飽和脂肪酸はコレステロールを増やし、魚に多い

不飽和脂肪酸はコレステロールを減少します。

③コレステロールを多く含む動物性脂肪、卵類、内臓物はひかえましょう。

④アルコール、菓子、ジュース、果物のとりすぎは中性脂肪を増やし、HDLコレステロールを減らします。体重増加にもつながるので要注意！

⑤食物繊維は便秘改善だけでなく、ナトリウムやコレステロールの排泄を促すはたらきがあります。

⑥酸化作用のあるビタミンC、Eやβ-カロチンなどを多く含む緑黄色野菜や果物、いも類、豆類、種実類を食べましょう。

⑦食事はゆつくりとよくかんで食べましょう。

⑧喫煙はがんや動脈硬化の促進、心臓や脳の血管障害をおこしたりと、からだに様々な悪影響をおよぼします。

⑨運動は血圧を下げ中性脂肪を減らすのに効果的です。

# 「リハビリテーションについて」その① リハビリテーション科技師長 原田 三士

最近では、テレビや新聞、雑誌などでリハビリテーションの文字を見たり聞いたりしない日が無いくらいです。しかし、これらの多くはリハビリテーションという言葉が「訓練室での機能回復訓練」や「物理療法」という意味として、やや誤解されて使われている事が多いようです。この語源はラテン語のハピリスという、「適した、(人間に)適わしい」という意味の形容詞を語幹

る権利の回復」、すなわち「全人的復権」を意味しています。少し硬い話になりましたが、私たちリハビリテーション科はこの目標に向かい全力で取り組んでいきたいと思っています。今年4月の保険の改正に伴いましてリハビリテーション科のシステムも大きく変化し戸惑われた患者様もおられることと思います。今後とも「真心を持って」、「明るく快活に」、「正しい知識・技術を身につけて」本当の意味で患者様のお役に立ち、心より信頼され喜んでいただけますよう努力していきたいと思っています。

け持つ、継続受け持ち看護婦制をとっています。

高齢患者の大腿骨折、交通事故・労働災害による

四肢や脊椎の骨折、リウマチ、

火傷など、ベッド上での安静が余

儀なくされ日常生活動作が十

分行えない患者様が多く、満

足できる治療、ケアが行えるよ

う医師・看護師も毎日奮闘し

ています。

そして、患者様が日常生活

に支障をきたさず、一日も早

く回復され、元の生活に戻れ

るよう医師、看護師、リハビリ

テーションスタッフ、MSWと力

をあわせ連携のとれた看護を提供できるよう日々努力を重ねています。

## 私たちの職場 (西4病棟) 看護師 加藤 愛



西4病棟は整形、形成外科病棟です。当病棟のちょうど真ん中に位置し、隣接した屋上庭園からは丸亀市のシンボル丸亀城が眺め、春には満開の桜が私たちの心を和ませてくれます。病床数は50床、看護スタッフ20名、平均年齢は40歳で自称美人が多く、個性派ぞろいの明るく活気あふれた病棟です。スタッフはとてもしんどい。毎日、毎日患者様を手術やケンサ、リハビリテーション、入浴介助へと車椅子、ストレッチャーに移動するため私たちの腕には立派な力コブができています。これぞ、西4病棟のシンボルです。当病棟は、患者様の入院から退院までを継続して受

## 逆紹介について

医事課長 桐生 勝幸

本誌の前号で、初診の時はかかりつけのお医者さまからの紹介状をお持ちになることをお勧めしました。診察した結果を患者さまの同意の下、かかりつけのお医者さまに引き続いて診ていただけるよう、配慮していることも申し上げましたが、逆紹介とはこのように、患者さまを、かかりつけのお医者さまのもとへ、紹介することなのです。これは、あなたのかかりつけのお医者さまと、当方の担当医師とが十分に検討しあつて、あなたに一番あった治療が可能なのころへ、変わっていただくことなのです。

病院にかかる必要がないと言ふことは素晴らしいことです。しかし、一年365日同じ体調でいられるものではありません。ましてや、年を重ねてまいりますと(私もそうですが)、今まで何ともなかったところにガタがくるものです。

病は気からとも申します。治療を受けておられる方々の、一日も早く良くなれますことをお祈り申し上げます。なお、新たに、かかりつけのお医者さまをご希望の方は、診察の時に医師とご相談なさってください。

当院の逆紹介率は平成13年度前半は80%台ですが、後半は100%を超えて、14年2月は126.9%、3月は111.2%となっております。

## 編集だより

患者サービスマン 山脇恵伊子

「いぶき」の発行も4回目を迎えました。労災病院を身近に感じ、発行を楽しみにしてくださる方が増えてきたのではないかと思います。第3号から「いぶき」についてのご意見・ご要望の用紙を綴じ込んでいます。元気を蓄えておきましょう。